MUSEUM PRESS

鳥取県立博物館ニュース

Newsletter of the Tottori Prefectural Museum

MARCH 2008 No. 5

平成20年3月発行

前田寛治《メーデー》1924年 頃、個人蔵

企画展 5月19日(月)～6月22日(日)

「前田寛治のパリ」 …… 2

企画展 7月19日(土)～8月24日(日)

「ようこそ恐竜ラボへ！～化石の謎をときあかす～」 …… 3

[自然] 観察ガイド「船通山(日野郡日南町)」 …… 4

資料紹介「過去を伝える押し葉標本」

[人文] 資料紹介「因州東照宮祭礼御予参行列図巻」 …… 5

コラム「『因幡堂縁起』に描かれた古代の因幡」

[美術] コラム サタデー・アート・フィーバー「毎週土曜はアートの日！」 …… 6

新収蔵品紹介 辻 晋堂作《坐像》

[山陰海岸学習館だより]新しい水槽のイカした生態展示 …… 7

[お知らせ]開館時間が延長！午後7時まで

講座・観察会・アートシアター、展覧会カレンダー …… 8

鳥取県立博物館

TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

企 画 展　5月19日(月)～6月22日(日)

前田寛治のパリ

前田寛治《裸婦》1928年　神奈川県立美術館蔵

エコール・ド・パリと呼ばれたルソー、ユトリロ、モディリアーニ、シャガールなどが集う1920年　代のパリは、多くの画家にとって憧れの都市でした。前田寛治（1896　－1930　）がパリの地を踏んだのは1923年 2月のことです。当時パリには、藤田嗣治、中川紀元、川島理一郎をはじめ多くの日本人画家が住んでおり、その数は、藤田によれば、第一次世界大戦前にはせいぜい20人程度であったのが、1920年　代に急増し、最盛期にはおよそ500人　にまで膨れあがったということです。2年半パリに居住し、ルーヴル博物館やリュクサンブール美術館などに足繁く通いながら制作活動を行った前田は、佐伯祐三や里見勝蔵など、「パリの豚児」と呼ばれた東京美術学校卒業生を中心にした若者たちと交流していたことが知られています。

この1920年前後は、イズムの追求ということが画家達の間で盛んになると同時に、単なる西洋の模倣から脱却し、独自の表現で日本の洋画を描くようになる過渡期でもありました。「写実」を武器に日本における真の洋画を追求しようとした前田は、「日本美術の現代にあっては、その個性芸術に独創的領域に突入する前に、まだ十分経ねばならない階段、物的探求の、堅い土台が築かれねばならないであろう」と、当時の日本洋画界が抱えていたこの問題に正面から向き合った、先駆的存在の画家であったといえます。

佐伯祐三《カフェ・レストラン》1927年　個人蔵

前田にとってパリでの2年半は、これまでの絵画観を打ち壊され、新たな価値観を埋め込まれるものでした。多くの日本人留学生と同様、当初は、西洋絵画の「質」と「量」に圧倒され、一時自らの画業に自信をなくしたことを帰朝歓迎会での講演原稿に記しています。しかし、一時アカデミー・モンパルナスに入りアンドレ・ロートのもとで学んだ前田は、キュビズムに関する論文を翻訳するなかで、セザンヌやマネ、クールベなど巨匠達の作品にも非常な関心を示すようになります。そして、数多くの傑作を実見する機会に恵まれたことで、絵画の名作が綿密な計算と熟考された論理の上に成り立っていること、またそこには「実在感」が存在していることに気付きます。パリ留学によって大きく成長した前田は、帰国後主に帝国美術院展覧会（帝展）と1930年　協会展に出品し、帝展特選を受賞するなど、新時代の旗手として当時の画家たちに大きな影響を与えたといえます。黒や赤を重視した荒々しさの目立つ前田の作風は、当時大いに人気を博し、若手画家を中心に「前寛ばり」の作品が数多く描かれました。

さて、前田がその短い生涯の中で追求したのは「写実」（レアリスム）ということに尽きます。生前からレアリストとして名の通っていた前田は、パリ留学以降、つねに「写実」と向き合い制作しながら、独自の絵画理論を形成していきました。前田の画業を振り返ると、彼が中央画壇で活躍したのは、パリ留学から帰国した1925年　以降のわずか5年ほどに過ぎません。そこで発表された作品の多くは、裸婦や婦人像など留学中に制作されたもの、及びその延長線上に位置するものといえます。

このように、前田のパリ留学は、彼の画業に与えた影響を鑑みると非常に重要なテーマといえます。本格的な回顧展となる本展では、これまであまり顧みられてこなかったパリ留学に初めて注目し、前田の知られざる一面に迫ります。パリ留学以降の作品を中心におよそ70点の油彩画と素描20点余に加え、様々な資料を展示します。また、佐伯や里見など交流のあった画家の他、セザンヌ、ヴラマンクなど影響を受けた画家の作品を一堂に集め、前田の画業とパリ留学の意義をご紹介します。

（美術振興課　林野 雅人）

前田寛治《2人の労働者》1923年　大原美術館蔵

■会　期：**5月19日**(月)**～6月22日**(日)　**無休**

■会　場：2階　第1・2・3特別展示室

■料　金：個人当日／800円
個人前売・20名以上の団体／600円
小・中学生、高校生、学生／無料

■講演会「多生の縁－前田寛治パリ淡交譜－」
＆ギャラリートーク

5月25日（日）14:00～15:30　講堂・企画展会場
講師／前田寛治令息　前田棟一郎
無料（ギャラリートークは要入場料）

■講演会「20年代・パリと佐伯祐三」

6月8日（日）14:00～15:30　講堂＜無料＞
講師／寺口淳治（和歌山県立近代美術館学芸課長）
無料

※その他、会期中の土曜日にワークショップ、ギャラリートーク、アートセミナー、アートシアターを開催します。

企 画 展　7月19日(土)～8月24日(日)

ようこそ恐竜ラボへ！

～化石の謎をときあかす～

化石は、恐竜について知るためのただひとつの手がかりですが、それは砂漠などの岩石の中にあります。掘り出して謎を解き明かさなくては、恐竜のことは何もわかりません。恐竜の研究者は、何をしているのでしょう?どこがおもしろいのでしょう?この展覧会は、わが国屈指の恐竜の研究実績をほこる林原自然科学博物館(岡山市)の全面的な協力を得て、恐竜研究のプロセスに焦点をあてて内容を構成した全国巡回展です。

モンゴル南部のゴビ砂漠は、恐竜化石の一大産地で、世界の恐竜研究者の注目を集めています。本展では、この地で毎年調査を行っている「林原自然科学博物館・モンゴル古生物学センター共同調査隊」が、現場から持ち帰った岩石から化石を取り出し、さまざまな手法を使って恐竜の真の姿を明らかにしていくプロセスをお見せします。

本展は恐竜標本をただ並べるだけの展覧会ではなく、日本人の研究者が、どのようにして恐竜化石を発掘し、研究し、よみがえらせるのか…、恐竜の研究現場に満ちあふれるさまざまなエピソードを、そのまま展示にして構成します。結果として、復元された恐竜骨格の背景にある、今まで出てこなかった「プロセス」を楽しくリアルに体験できます。

具体的な展示構成の一部を紹介しますと、二足歩行の植物食恐竜としては最大級の恐竜・サウロロフスについての研究から骨格の組み上げまでを、より詳細に、より近く、研究の現場感覚たっぷりに展示します。また、日本初公開となったコリトサウルス全身骨格(実物)とバリオニクス全身骨格(複製)をはじめ、疾走姿勢をとり迫力のある姿で復元されたアロサウルス全身骨格、背中と脇腹に装甲をもつエドモントニア、世界的な恐竜造形家ツェルカスの手による3体のディノニクス肉づけ標本など、ふだん見ることのできない学術的価値の高い標本の数々を展示します。さらに、アクティビティエリアも設置し、竜脚類の大腿骨の実物に触れたり、恐竜が歩いていたようすを体験したりするコーナーなど、ただ見て回るだけではなく、体験して確かめるハンズオン展示も行います。

恐竜研究のプロセスをテーマとした本格的な展覧会は、日本で初めてのことです。本展を通して、恐竜研究者たちにより、はるか時を超えて私たちの目の前に再現された「化石という地球のメモリー」につぶさに接することで、今まで経験したことのない感動をリアルに体験していただければと思います。

(学芸課　山口勇人)

コリトサウルス全身骨格〔実物:林原自然科学博物館蔵〕

バリオニクス全身骨格〔複製:林原自然科学博物館蔵〕

■会　期:**7月19日**(土)**～8月24日**(日)　**無休**
■会　場:2階　第1・2特別展示室
■料　金:個人当日／800円
　個人前売・20名以上の団体／600円
　小・中学生、高校生、学生／無料
■オープニング講演会「ようこそ恐竜ラボへ－研究現場はこんなにおもしろい－」(仮題)
　7月19日(土)14:00～15:30　講堂＜無料＞
　講師:石垣　忍(林原自然科学博物館副館長)
　対象:小学生以上(小学生は保護者同伴)
　定員:250名(先着順・申込み不要)
■自然講座「恐竜化石のレプリカをつくろう！」
　8月2日(土)、3日(日)
　いずれも10:00～12:00・13:00～15:00(計4回)
　県立博物館会議室＜無料＞
　講師:県立博物館学芸課職員
　対象:小・中学生(小学生は保護者同伴)
　定員:各回20名
　(往復ハガキによる事前申込みが必要)
　申込み受付期間:7月10日(木)～22日(火)
　(当日消印有効)※定員を上回る場合は抽選
■展示解説「恐竜ラボ解説ツアー」
　7月20日(日)・8月9日(土)11:00～12:00
　企画展会場＜要入場料＞
　講師:山口勇人(鳥取県立博物館学芸課)
　対象:小学生以上(小学生は保護者同伴)
■モンゴル恐竜発掘写真展
　企画展会期中常時　企画展会場＜要入場料＞

アロサウルス全身骨格〔複製:林原自然科学博物館蔵〕

観察ガイド

船通山（せんつうざん）

日野郡日南町

船通山（1142.5m）は、日南町西部、鳥取県と島根県の県境に位置する山です。別名「鳥髪（とかみ）の峰」とも呼ばれ、出雲神話でスサノヲノミコトがヤマタノオロチを退治した、伝説の地としても知られます。

渓谷沿いの登山道はサワグルミやトチノキ、チドリノキなどの自然林に囲まれ、林床にはサンインシロカネソウやラショウモンカズラといった希少な草本類を見ることができます。山頂周辺には国指定の天然記念物でもあるイチイの巨木、5月初旬が見ごろとなるカタクリの花畑などがあり、シーズンには多くの登山客でにぎわいます。

気持ちのよい落葉広葉樹の林

野鳥も豊富で、ヤマガラやキセキレイ、ミソサザイ、ゴジュウカラ、ヒガラといった種類の他、初夏であれば、オオルリやキビタキなど、姿も声も美しい鳥たちを楽しむことができます。

沢沿いの登山道では、足元の「日の当たらない」生き物たちにも目を向けてみましょう。運がよければ、土の中から出てきたシーボルトミミズに出会えるかもしれません。全身あざやかな青藍色の、非常に美しいミミズです。ミミズとしては日本最大級の部類に入り、大きなものでは30cmを軽く超えてしまいます。“オロチ（大蛇）”とまではいかないものの、間近で見るとかなりの迫力があります。県内での正式な記録はあまり多くありませんが、船通山では、雨上がりなどに観察するチャンスがあります。「ミミズは苦手」という人にも、ぜひ一度は見ていただきたい種類です。

青藍色のシーボルトミミズ

その他にも、岩の陰や落ち葉の下には興味深い生き物がたくさんひそんでいます。濃紺の地に銀灰色の斑紋をもつ神秘的なブチサンショウウオや、「子育て」という特異な習性をもつヒラタヤスデ、「生きている化石」ともいわれるガロアムシの仲間、・・・等々。普段の山歩きではまず気がつかない、彼らの姿にも注意してみると、自然観察の楽しみがさらに広がることと思います。

（学芸課　一澤 圭）

「登山口（鳥取県側）までのアクセス」
日南町生山から国道183号を南西方向に進み、萩原から県道15号を横田方面に向かう。6kmほど走って船通山の案内標識で右折、広域基幹林道船通山線を約2km進めば登山口につく（駐車場あり）。

資料紹介

過去を伝える押し葉標本

現在、当館には3万点余りの維管束植物（シダ植物と種子植物）の標本が保管されています。その多くは地域在住の植物研究家からの寄贈や当館の学芸員が採集したものです。これらは、維管束植物の標準的な標本スタイルである押し葉標本（腊葉標本（さくようひょうほん）とも言う）として保管されています。

作られたことがある方もおられると思いますが、採集した植物を新聞紙に挟んでプレスした状態で乾燥させ、それをA3程度の大きさの台紙に張り付けます。そして、博物館資料として最も重要なこととして採集地、採集日、採集者などのデータを記入したラベルを貼ります。できた押し葉標本は防虫対策を行い、利用しやすいように科、属、種ごとに整理して、収蔵棚に保管します。このように収蔵された標本は分類研究に使われたり、さまざまな植物の分布状況や形態の変化を明らかにするために利用されます。

さらに押し葉標本は、人為的影響や外来植物の侵入により自然環境や植物相が大きく変化している現在、過去の自然環境や植物相を私たちに伝えてくれる貴重な資料です。例えば、鳥取市福部町には1958年まで湯山池という潟湖が存在していましたが、現在は宅地に変貌し、当時の様子を知ることはできません。しかし、当館の標本には1954年8月15日に湯山池で採集された水生植物のミズアオイ、カンガレイ、ガガブタの3点の標本が残されています。これらの植物の生育環境から考えると、当時の湯山池には、日当たりの良い浅瀬や湿地があり、その浅瀬には葉を水上に伸ばしたミズアオイが、湿地にはカンガレイが生育し、水面にはガガブタの葉が広がっていたのでしょう。このように押し葉標本は、過去や現在の自然環境や植物相を未来に伝えることのできる大切な物的証拠の1つなのです。

1954年8月15日に湯山池で採集されたミズアオイの押し葉標本

なお、当館の収蔵資料の一部は博物館のホームページのデジタルミュージアムでご覧いただけます。

（学芸課　高木 邦昭）

資料紹介

因州東照宮祭礼御予参行列図巻

今回紹介する鳥取藩の行列図巻は、平成19年 度に寄贈を受けた資料のひとつです。この図巻は、1852（嘉永5）年9月17日に行われた因州東照宮（現在の樗谿神社）の祭礼において、御旅所へ向かう藩主の行列を描いたものです。鳥取藩における東照宮の祭礼は、4月か9月の17日に催され、神輿が、城下町を練り歩き、御旅所のある郊外の古海河原までを巡幸しました。藩主は、神輿を御旅所で出迎えるため、行列を整えて、御旅所に先回りをしました。鳥取藩では、これを「御予参」（ごよさん）と称していました。

これまで鳥取藩の大名行列について記したものには、供揃を文字で示した行列書などが知られていましたが、行列のみを絵図化した資料は、今のところ本図以外には確認されていないため、とても貴重です。

図巻は、現在二巻に分かれています。やや厚手の和紙を横に貼り継いでおり、表装はされていません。寸法は二巻とも、縦が10cm、横が284 cmです。

行列は先頭から最後尾まで、紙面を右から左に進むように描かれています。人物は、約3cm前後と小さいのですが、一人ひとりには薄い絵具で彩色が施されています。総勢423 名の人物が描き込まれていますが、図巻には欠失部分があるため、本来の人数はこれを上回ると考えられます。

製作者名、製作年代、絵図の製作目的などに関する書き込みはありませんが、行列の各部分に役職名や人物名などの文字情報を書き込んでいます。そのなかに家臣で一人だけ、駕籠に乗ってお供している吉村牧右衛門という藩士が描かれています。そこには「御用人吉村牧右衛門老人にて駕ご免なられ」との説明が加えられています。鳥取藩では、本来騎馬でお供すべき家臣に対して、70 歳以上の者には駕籠に乗ることを許すという取り決めがありました。鳥取藩の公務日記にも、牧右衛門が駕籠でお供した旨のことが記されており、図巻の正確さを裏付けています。

また図巻では、従者が担いでいる道具のかたちも細かく描かれています。なかでも、行列の威儀と家格を示す二本の黒い鎗の鞘は、参勤交代の行列では、駕籠の後ろに並ぶことになっていますが、図巻では駕籠の前に位置しています。行列の目的や規模に応じて、配置を組み替えていたと考えることができます。

このように文字資料だけではわからなかった、行列の順序、道具、人員などが細かく描かれている図巻は、今後さまざまな視点から研究可能な、おもしろい資料のひとつです。

（学芸課　来見田 博基）

行列図巻（部分）

コラム

『因幡堂縁起』に描かれた古代の因幡

京都の因幡堂平等寺は、平安時代中頃に橘行平によって賀露の海から引き上げられ、その後、都へ飛来したと伝えられる薬師如来像を本尊とする真言宗の寺院です。霊験あらたかな本尊は、平安時代から現代まで、多くの人々の信仰を集めています。

この因幡堂の成立と本尊の霊験を描いた『因幡堂薬師縁起絵巻』（重要文化財、東京国立博物館所蔵、以下「東博本」）はよく知られていますが、これとは別に、東寺観智院所蔵の詞書のみの縁起（以下、「観智院本」）があり、それを絵画化したものとして、因幡堂所蔵の絵巻（以下、「因幡堂本」）と、鳥取市の座光寺が所蔵する絵巻断簡（以下、「座光寺本」）が存在します。制作は、鎌倉時代と推定される「東博本」が最も古く、応永32（1425）年の具注暦の裏面に記された「観智院本」、元禄10（1697）年の奥付のある「座光寺本」、万延2（1861）年制作の「因幡堂本」の順となります。

因幡堂縁起（京都市・因幡堂蔵）

いずれも薬師如来像の漂着、都への飛来と、その功徳で行平が因幡守となり、因幡堂も都の人々の信仰を集め大きく発展したという大筋は共通します。しかし、「東博本」を除く3書には、薬師如来像は釈迦が造ったものであること、海から引き上げるにあたり地元の漁師・安大夫の意見を参考にしたこと、行平が因幡国内に寺院を建立し、その維持のために息子を残したこと、行平没後も薬師如来像の霊験で多くの人の願いが叶えられたことなど、「東博本」に無い場面や説話が載せられています。また、武内宿祢が祇園精舎から飛来した「幡」の霊力によって悪魔を退治したため「因幡」と呼ぶようになったという、国名の由来も語られていますが、これは、仏像の聖性を高めるため、薬師如来像の出現した因幡を「仏に護られた地域」としたものと思われます。

この鳥取に縁の深い薬師如来像と『因幡堂縁起』（因幡堂本）は、今年秋開催の企画展「はじまりの物語ー縁起絵巻に描かれた古（いにしえ）のとっとりー」で展示紹介します。薬師如来像は、実に千年ぶりの里帰りです。どうかご期待ください。

（学芸課　石田 敏紀）

コラム

サタデー・アート・フィーバー「毎週土曜はアートの日！」

当館では、平成20年 4月より美術部門の館内普及プログラムを「毎週土曜はアートの日!」と題し、毎週土曜日にアートに関するイベントを行います。

このプログラムは、内容の違う4つのタイトルで構成され、博物館での美術鑑賞をより活動的なものにし、毎週土曜日に行われる身近な行事に変えました。

美術部門普及キャラクター
“普及のQちゃん”

まず「ワークショップ」は1時間～半日程度で参加できる様々なメニューのワークショップです。お子様から年配の方まで幅広い年代を対象にしており、気軽に参加していただけます。また、県内外のアーティストを講師に招き、“スペシャル”なワークショップを年1回 開催します。

「アートシアター」はより広く、深くアートの世界に親しんでいただくために、美術、建築、ダンス、アニメーションなど様々な表現領域に関する映像の上映会を開催します。今年度は春に開催予定の企画展「前田寛治のパリ」に合わせ、主にフランスにちなんだ映像をお送りします。

「アートセミナー」は美術担当の学芸員が日頃から研究しているテーマについて、年に7回 の講座を開催します。学芸員の視点で見つめ、美の知識を深める中身の濃い時間をお届けします。

「ギャラリートーク」は美術担当の学芸員が、展示室で紹介している作品について分かりやすく解説します。展覧会は鳥取県ゆかりの美術作品を展示する“常設展示”、様々なテーマで企画展示を行う“近代美術常設展示”、広く国内外の貴重な作品を紹介する“企画展示”の各展覧会で開催します。

このように平成20年 度の美術部門は、より身近になってたくさんのイベントを提供していきます。「毎週土曜はアートの日!」です、土曜はぜひ博物館にお越し下さい!

（美術振興課　稲垣 彰浩）

新収蔵品紹介

辻 晋堂作《坐像》

1952（昭和27）年、白セメント、高さ109.5cm　横幅45.0cm　奥行43.0cm

「にゅうっ」と伸びた腕と、無表情な顔立ちが印象的な作品《坐像》。鳥取県出身の彫刻家・辻晋堂（1910 年～1981年 ）が42歳 の時に制作した作品です。写真ではわかりにくいですが、本作はなんと、建築資材のイメージの強い「セメント」で作られています。辻晋堂といえばまず「陶彫」が思い浮かびますが、それを確立する以前、京都市立美術専門学校（現・京都市立芸術大学）で教鞭をとるために1949年 に京都に移ってから約5年間ほど、辻はセメントという素材に向き合いました。

日本で盛んにセメント彫刻が作られるようになったのは、戦時中の金属不足等がきっかけと言われますが、素材から来る独特の存在感と、野外での展示にも耐えうる点から、戦後の物資不足の一時期（1950年 代～60年 代）、多くの彫刻家がセメントで彫刻を制作しています。京都において辻は、古い美術教育を一新すべく、抽象的な形態の構成と、セメントや鉄など様々な素材を使って彫刻を制作することを学生たちに指導。自身も野外彫刻展等に意欲的にセメントを使った作品を発表していきました。

2006年 度に当館が収集した本作は、1952年 の再興第37 回院展に出品されたもので、制約の多い技法にも由来する単純化されたフォルムと、顔に貼り付けられた2個の「おはじき」の眼差しが、独特の存在感とユーモアを醸し出しています。当時試みた斬新なセメント彫刻を、オーソドックスな作風が支配的な院展に問うた野心作と言えるでしょう。

辻 晋堂作《坐像》

（美術振興課　三浦 努）

美術常設展

2F　近代美術展示室　さまざまなテーマによる企画展示を行います。

前田直衛展　併設：新収蔵品コーナー
■6月30日（月）～7月21日（月・祝）
昨年度新たに収蔵した鳥取市（旧用瀬町）出身の日本画家・前田直衛の作品を中心に紹介します。

夏休み企画
手紙ではじまる展覧会
■7月27日（日）～8月27日（水）
鑑賞者が後に来る人へメッセージを残していく、来館者参加型の美術展覧会です。

1F　美術常設展示室

鳥取県ゆかりの江戸時代から現代までの美術作品を展示しています。

鳥取の美術１	4月23日（水）～7月13日（日）
鳥取の美術２	7月16日（水）～10月13日（月・祝）

※途中展示替えのため、6月2日（月）・9月1日（月）・12月1日（月）・2月23日（月）は休室します。

山陰海岸学習館だより

新しい水槽のイカした生態展示

山陰海岸学習館は、身近な自然に親しむ野外観察会や講座を開催するだけでなく、来館してくださる方々に館内の展示物からもさまざまな感動をお伝えしたいと思っています。そのために、今年7月にまず人気の水槽展示をリニューアルオープンさせます。新しい水槽では、生きものが実際に海の中でどのような動きや生活をしているのか、その生態をじっくり観察していただけるようにします。生きもの本来の行動や能力を見せる展示スタイルは「生態展示」や「行動展示」と呼ばれ、動物園や水族館等でも注目されています。ここでは、一足先にその展示内容（計画）を少しだけご紹介しましょう。

スジコウイカ

新しい水槽展示では、水族館でも長期飼育がとても難しい“イカ”を扱う予定です。あまり知られていませんが、イカの仲間の多くは約1年で短い一生を終えます。卵からふ化したイカの赤ちゃんはたった数ヶ月で急速に成長して大人になり、自分の子どもを残すために繁殖します。みなさんは、イカの赤ちゃんが何を食べていて、1日にどのくらいのエサを必要とするかを知っていますか？また、イカのオスがメスに求愛する姿や産卵シーンを観察したことがある人も少ないと思います。食卓に並んでいるイメージが強いイカですが、海の中での本来の姿や動きはユニークかつ知性的で、見ている人々を喜ばせます。春には卵からイカの赤ちゃんがふ化し、秋にかけてたくさんのエサを食べながら日々大きくなります。冬には交接（交尾）が始まり、春先には産卵が観察できます。当館ではイカの成長や行動の観察から季節の移り変わりすら感じられるような新しいタイプの生態展示を目指しています。このような生態展示はイカがでしょうか！？

（山陰海岸学習館　和田　年史）

■ 普及活動一覧（4月～９月）

野外観察会「砂浜でのスナガニの観察会－参加体験型調査－」
6月21日（土）と8月24日（日）　13時～17時
場所／熊井浜（岩美町）
［定員］各15名（参加無料）　要電話申込
［対象］一般（小学生以下は保護者同伴）　申込期間 6/7(土)～

サポーター養成講座「海辺の野外活動」
7月12日（土）と13日（日）　10時～16時
会場：山陰海岸学習館 体験学習室　要電話申込
［対象］18歳以上の方（両日とも参加可能な方）　申込期間 6/15(日)～

野外観察会「磯の観察会」
7月26日（土）、27日（日）、8月2日（土）、3日（日）、9日（土）、10日（日）
9時～15時
集合場所：山陰海岸学習館　観察場所：熊井浜（岩美町）
［定員］各10家族（参加無料）
［対象］（7月26, 27日, 8月2日は小学校低学年以下向け）
（8月3, 9,10日は小学校高学年以上向け）　要電話申込
荒天の場合、室内で海藻おしばとウニの実験　申込期間 7/12(土)～

自然講座「『夏休み標本調べ相談室（海の生きもの）』」
8月17日（日）　10時～17時
会場：山陰海岸学習館 体験学習室
［対象］小中学生・一般（小学生以下は保護者同伴）　申込不要、定員なし

野外観察会「ウミホタルの採集と発光ショー」
9月13日（土）、10月11日（土）　17時～21時
集合場所：山陰海岸学習館　実施場所：網代港
［定員］各15名　要電話申込
［対象］一般（小学生は保護者同伴）　申込期間 8/30(土)～

野外観察会「浦富海岸スノーケリング体験」
9月20日（土）、28日（日）　13時～17時
集合場所：山陰海岸学習館　観察場所：熊井浜（岩美町）
［定員］各10名　要電話申込
［対象］一般（高校生以上）　申込期間 9/6(土)～
［保険料］250円

鳥取県立博物館附属　山陰海岸学習館
■開館時間：9時～17時（7月・8月の毎週土曜日は18時まで開館）（入館無料）
■休　館　日：原則として月曜日（祝日の場合は翌日）（7/20～8/31の間は毎日開館）
【お問い合わせ】〒681-0001　鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794－4
電話・FAX：0857－73－1445　E-mail: saninkaigan@pref.tottori.jp

お　し　ら　せ

開館時間を延長！午後７時まで

４月～10月までの間、土曜日に限定して実施していました開館時間の延長をすべての曜日で実施します。新しい開館時間は次のようになります。

４月～10月は午前９時～午後７時まで。
（２時間延長します！）

11月～３月は午前９時～午後５時まで。

なお、鳥取県立博物館以外の民間団体や同人が主催する展覧会では、従来どおり午後5時に展示を終わる場合もありますので、詳しくは主催者にお問い合わせください。また、この開館時間の延長は平成20年度に試行的に実施するものです。みなさまのご意見をいただき、よりよい運営に役立てたいと考えております。来館に際してアンケートを依頼することがありますが、ご協力をお願いします。

INFORMATION　イベントガイド

講座・観察会・アートシアター　LECTURE・FIELD STUDY・ART THEATER

■自然部門　■歴史・民俗部門　■美術部門

2008 4 APL.

《アートシアター》世界・美の旅
「ルノワール －世紀末の女たち－」
「セザンヌ －12通の手紙－」
■4月5日（土）　15時～16時　講堂
■小学校高学年　定員250名

《ギャラリートーク》
【常設展】近世絵画にみる風景表現
■4月12日（土）　14時～　美術展示室
■中学生以上　定員なし

《アートシアター》世界・美の旅
「モネ－印象派の巨匠－」
「マネ－落選した名画－」
■4月19日（土）　15時～16時　講堂
■小学校高学年以上　定員250名

《ギャラリートーク》
【常設展】鳥取の美術１（１）
■4月26日（土）　14時～　美術展示室
■中学生以上　定員なし

《歴史講演会》
宇治茶師と鳥取藩
■4月27日（日）　14時～15時30分　講堂
■一般　定員250名

2008 5 MAY

《ワークショップ》
親子で工作
　鯉のぼりをつくろう！
■5月3日（土）　13時～15時　会議室
■要申込　幼児・小学生とその保護者　定員40名（先着順）

《天体観望会》
春の星を見る会
■5月10日（土）　19時～21時　前庭
■小学生以上

《アートシアター》
「ル・コルビュジェ」
■5月10日（土）　15時～18時　講堂
■高校生以上　定員250名

《アートシアター》
「シャルロット・ペリアン」
■5月17日（土）　15時～16時　講堂
■高校生以上　定員250名

《野外観察会》
学芸員と楽しむ動物ウォッチング
■5月18日（日）　9時～12時
■鳥取市樗谿公園入口鳥居前集合
■要申込　小学生以上　定員　30名（先着順）

《ギャラリートーク》
前田寛治のパリ
■5月24日（土）　14時～15時　企画展会場
■中学生以上　定員なし

《歴史講座》
とっとり城下町ウォーク（Ⅰ）
■5月25日（日）　9時～12時　玄関前集合
■要申込　一般　定員20名

《講演会・ギャラリートーク》
多生の縁 前田寛治のパリ淡交譜
■5月25日（日）14時～15時30分　講堂・企画展会場
■一般　定員250名

《ワークショップ》
前田寛治に挑戦
■5月31日（土）　13時30分～16時30分　会議室
■要申込（200円）　小学生　定員20名（先着順）

《ギャラリートーク》
前田寛治のパリ
■6月7日（土）　14時～15時　企画展会場
■要申込　中学生以上　定員なし

《講演会》
20年代・パリと佐伯祐三
■6月8日（日）14時～15時30分　講堂
■一般　定員250名

2008 6 JUN

《講演会》
因幡・伯者の城下町の系譜
■6月14日（土）14時～15時30分　講堂
■一般　定員250名

《アートセミナー》
前田寛治　人と芸術
■6月14日（土）14時～15時30分　会議室
■中学生以上　定員40名

《ギャラリートーク》
前田寛治のパリ
■6月21日（土）　14時～15時　企画展会場
■中学生以上　定員なし

《アートシアター》
「パリところどころ」
■6月22日（日）　15時～16時30分　講堂
■一般　定員250名

《ギャラリートーク》
【常設展】鳥取の美術１（２）
■6月28日（土）　14時～　美術展示室
■中学生以上　定員なし

2008 7 JUL

《アートセミナー》
ルネサンス絵画の植物
■7月5日（土）　14時～15時30分　会議室
■高校生以上　定員40名

《アートシアター》世界・美の旅
「ゴッホ　－アルルのひまわり－」
「ゴーギャン　－野性へのあこがれ－」
■7月12日（土）　15時～16時　講堂
■小学校高学年以上　定員250名

《歴史講座》
石器をつくろう
■7月13日（日）　13時30分～15時30分　会議室
■要申込（200円予定）　小学高学年とその保護者　定員20名

《ギャラリートーク》
【近代常設】　前田直衛
■7月19日（土）　14時～　近代美術展示室
■中学生以上　定員なし

《企画展講演会》
ようこそ恐竜ラボへ（仮題）
－研究現場はこんなにおもしろい
■7月19日（土）　14時～15時30分　講堂
■小学生以上　定員　250名（先着順）

《企画展展示解説》
恐竜ラボ解説ツアー
■7月20日（日）　11時～12時
■企画展会場　小学生以上

《民俗講座》
鳥取県の民話を聞く会　－佐治谷ばなし－
■7月20日（日）　14時～15時
■歴史民俗常設展示室　一般

《野外観察会》
川原の石を調べよう！
■7月26日（土）　10時～15時　鳥取市河原町和奈見
■要申込　小学生、中学生　定員　30名(先着順)

《ワークショップ》
鳥取スロー・ポスト開局 !(仮称)
※7月26日、8月10日に参加できること ※受付は7月26日（土）～
■7月26日（土）、8月2日（土）、8月9日（土）、10日（日）、30日（土）　午後　会議室
■要申込　小学校高学年以上
※詳細はお問い合わせください

《歴史講座》
お金をつくろう
■7月27日（日）　13時30分～15時30分　会議室
■要申込　小学高学年とその保護者　定員20名

2008 8 AUG.

《天体観望会》
夏の星を見る会
■8月2日（土）　19時30分～21時　前庭
■要申込　小学生以上

《自然講座》
恐竜化石のレプリカをつくろう！
■8月2日（土）、3日（日）　１日２回　会議室
■要申込　小・中学生
※お問い合わせください

《企画展展示解説》
恐竜ラボ解説ツアー
■8月9日（土）　11時～12時　企画展会場
■小学生以上

《歴史講座》ペーパークラフト
樗谿神社のお祭り行列を再現しよう
■8月10日（日）　10時～12時　会議室
■小学生以上　定員20名

《ギャラリートーク》
【近代常設】手紙ではじまる展覧会
■8月16日（土）　14時～　近代美術展示室
■中学生以上　定員なし

《自然講座》
夏休みの標本調べ相談室
■8月17日（日）　10時～17時　会議室
■小学生以上

《アートセミナー》
普及的展覧会から鑑賞者の心理を読み解く
■8月23日（土）　14時～15時30分　会議室
■高校生以上　定員40名

《講演会》
因幡・冨木郷出身の下総・中山法華経寺開山冨木常忍
■8月24日（日）　14時～15時30分　講堂
■一般　定員250名

2008 9 SEP.

《ギャラリートーク》
【常設展】鳥取の美術２（２）
■9月6日（土）　14時～　美術展示室
■中学生以上　定員なし

《野外観察会》
秋の鳴く虫の夕べ
■9月6日（土）　19時30分～21時　会議室～野外
■要申込　一般（小中学生も可）　定員20名

《アートシアター》
「ダブルブラインド」
■9月13日（土）　15時～16時　講堂
■一般　定員250名

《ワークショップ》
博物館に巨大壁画をつくろう!
■9月20日（土）　10時～　13時～　会議室
■一般

《アートシアター》
「マリー・ローランサン」
「ユトリロ」
■9月27日（土）　15時～16時　講堂
■一般　定員250名

※特に記載のないものは、申込不要、無料です。※申込み・お問い合わせは学芸課（0857-26-8044）または美術振興課（0857-26-8045）へ　※小学生以下は保護者同伴。　※展示会場内の講座は入場料が必要です。

鳥取県立博物館ニュース
MUSEUM PRESS No.5
平成20年（2008年）３月26日発行
編集・発行　鳥取県立博物館

住所　〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL　0857(26)8042（代）
FAX　0857(26)8041
URL　http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm
E-mail　hakubutsukan@pref.tottori.jp

ＪＲ鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース
「⑮仁風閣・県立博物館」下車すぐ
砂丘・湖山・賀露方面行
「西町」下車約400m
市内回り岩倉・中河原方面行
「わらべ館前」下車約600m

いいことプラス Energia 中国電力
TOTTORI BANK 青い鳥の銀行です。鳥取銀行
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています